# 造主義と科 学的 アナキズ

P ナキズム社会科学の予備概念

## Ŧi. 郎

### ポトキ ・ンとレ ス トロー ス 20 類似点

思想 VC た関 心 る ic ٤ 接 0 VC 5 VC は 関 E を to 7 0 L そ す 理 T B L N から そる クス主義と実存主義の弱点を克服する 論 3 0 T 弁証 か 『構造 で L - 1 翻 0 見 あ か 的 5 0 っであ ように 訳書 よって 一般の T H 対決 釋法 法 9 \$ 方 主 解 6 る。 の主要 る。 一や解説 即 体 義 であ そ あ 2 注 と弁 なっ ち国 後 あ 0 0 L 当時 る。 目の 私 3 T 0 その 秩序 な焦 た。 本も 0 は 証 家 我が 的 がは 日 法 は VC 私が構造主義に関心なる出版されて、多くの人 発祥地の VC 方法論 点は、 الح 弁 は 頃 方 かし当時 アナキ 果を綜 証法的 如何 国 な は され 5 にも、その 0 なる方 国家機 T T 玉 的 5 ズム て、 思 フ 論争の 田 必 は、 島 想 ラ 演繹 伙 多く V 法 構 2 界 節 VC 2 スに 後 を 夫氏 I 焦 VC 07 0 先 解 13 3 0 点 I N 0 於 人 か 立 T 过 0 体 ク 0 を 構 端 的 な 14 ス 著 寄 H 浩 T 死 T を 如主 せの主 はり 滅 彼 保 書 L な

> 偽 0 0 との 容易に 関 . 決し 係 から かねて 更 VC 5 関心 た。 そ 世 ざる れで新 を得 L ない 構造 1 な 2

を有 階級 思惟方 IJ 傾 T 向 \$ 弁 ナ 虎 5 わ ズ 証法 利に対治 Ł ح す 4 から て 利 + 0 は 1 0 ズ勢 法 は 生 n 今 ズ 好の あ ムとマ 従 条件 導 運 を から や経 4 勢 幸 VC 5 T 隆盛 如何に \_ 力 n 来 3 動 は当 を 隆盛 き 状 以 て、 とな が抬 派 済 を T 0 となったのでなったのでなったのでは 勢が 時 T を極 労 IV T 李 4 0 0 うけ 働 ク 弁 我 P 堺 T 争 L 運 ス ナ 和に 証 か カニ 80 ح 0 . B 始 国 Ł 主 L: + 7 る n 動 T 段 法 かる さめ VC 義 年 を × 的 JII き から 0 政治運 れ との 4 マは て、 普 T 0 を 過 あ づかな 我 4 等 か VC 頃 から 争終 程 0 6 IV 勢 通 論を クス 2 マ選 Ł 理 迫 を 思 旧 0 5 は 6 7 論的 n P 動 2 想 政. 7 IV 挙 5 0 ルれ 主 か 5 T から 界 治 振 ナ がク 0 b ス主 実施 対 ŧ 惟 国 急 ح を風 + 4 9 ク VC 義 \_ 決点は 方法 ス主 0 ズ環 激 ٤ た。 VC 廻 当 争 31 に隆 義され 時 陣 4 Ł VC 和 VC 争 L て、 2 一義を 福 営 P L カン を 集 0 政治運 盛 て、 か L 弁 to 中 本 がサて T V 制圧 1 頭 2 を 0 との T 圧 証 カン 3 無産 結 な T 法と V L 労 ズ 角 極 せ VC ね入働 L ムをカす 80 動 \* 唯 0

-14 -

ざる Ł, 法的 4 n は r ٢ 後 な VC 問 な L 5 中 T H 生れ ま て、反 から に共 すべ 廃止 ナ たっ で きた 題で 5 限 当時 当時 + 必然で 弁証法 0 ر ح b た ある 産主義革命 ė ス てき 大学に 7 す V VC 弁 ルク のは 対 であ ニン ŀ ~ 題 な n きは 的必然 て、 ح ح 証 P 主 VC る は あ C る \$ 社会科 今日 法的 ナキ 張 b、 と P 直 0 ス主義者自 は 0 ナキ 0 5 言 谷 7 を見 0 国家は抑圧 n 左 命 即 必 スト で Ł 7 VC 葉を引 から < 0 T カン ち民 廃止 はな れなく ズム なり、 如是 ク T T y 然 5 あ VC ス to b 争 \$ サ VC は 主主義革 < 身 0 閑 I 0 L 0 如 わ 工 Ĺ も、プ 進 とれ 20 よう は雑 何 か 0  $\pm$ 6 0 2 7 機 0 て死滅 て国家 、プロン路を遮 弁証 な 点 VC 3 1 家 あ と主張 は廃止 から 段 関 から よら 3 C . 命、 であ U 7 法 7 階 5 0 あ T 廃止 する ح 的 1/ V 0 V 断 IV 0 た 6 死 クス主 した 国家 社会主 す る 次 が益 する 9 0 t 0 I 従 I IJ 3 25 0 0 滅 す 0 方法 がは死 0 よう は t 0 時 13 5 5 0 一義革 社 あ 独 6 義 す 2 0 VC か T な な もので 動得な か得な ある。」 カコ 0 VC 会 2 を 波 る ح 0 家はが する 命 I 方 有 L  $\mathbb{R}$ 述 時 VC n 利 5 玉 家 ~ 評 た は法

5 最

VC

い証

n

VC

P

ス

2

2

7

は、

物弁証

法と

は

何

家 を T

VC

迫 5 VC ある \$ とれ 0 C 5 3 77. 探究が焦眉 する方法論の確立 0 課題 を必 であり、 要と する 時 事 VC 吾 態 VC tis

三な 3 状 張 衝 定 は 2 10 加 5 ま から 混 えると n 7 動 学 的 5 0 VC T あ クロ を憂 な 玉 n は 一十 0 的 冲 的 0 な to ママ ギ E VC to 方 家 か で石川 7 な 何 から 法論が とも からで L 行 L は 0 2 D ボ 5 7 廃止 てい 綜合 た 物 ポ 1 て、 IV 2 動 カコ 2 弁 三四四 プの L 出 7 証 T 1 + ス主 が甚 た。 を如 来な 4 的 あ な ٤ 結 証 法 t 当 丰 1 の主 果的 法批 か分析 0 3 か 5 る を批判研究 1 た。そして だしく、 従 0 何 を 0 9 0 方法論を P か 義 か 張 って国家廃止 即 to VC 0 VC 判 ナ 0 0 なす は予 た。 段階説 ち哲学 5 キスト Ł, 的 つ世 Ļ は ま 80 た かの基礎理 従って 科 理論的 べき 当時ア 期 弁証 斯 9 界 確立 として、加 題名 VC 学 的 する 5 観 L L 対 を新 的 VC か 法  $\exists$ こそのなり で、 は Ł ナ 的 I 1 た L 0 VC 40 て、 うけとめ 性物論 3 しく見 理論 P 5 + 0 L 社 5 統合が 混 Ł = 9 ス 2 藤 て、 会 点 の批 ズ 的有效 1 果 科 する テ 沌 VC 4 1 で を 学 直 1 か 7 0 間 な 方 判 動 0 熟 15 VC 7 観 L H 0 2 反 しも 基く 1 5 き 名 0 VC 念 To 幸 VC 3 VC 混 \$ 0 論 \$ だ 立 ٤ から 擊 於 VC 0 止 を 冲 得 主 幸 0 確 T 吐 1 F か

5 は うよ 5 VC た な 何を意味する には 2 t んのである アナ を 出来する伏 + ・ズムの たもの か などを取 魔殿の 方法論は確立 あ 3 りあげ よう こっそ なもの n て、その真 以来 され VC 弁 な 5 なり 証 法 相

にされ と云い 義に 2 な緒口 以 つるべき る ح to E ぬ 0 てよコ け のよ を与えてくれたのであ I VC 5 3 る。そ K VC 構造分析の方法が、弁証法批 5 \$ クも(アナキ 弁 のかを探究 な状態に 証法 警戒すると同時に、 『弁証法は人 n だけに吾 お は イズム思想篇 かれ がする る。 を酔 T 用 h とて い意が 真 わ 具の科学方法 難問であ 時 かなけれ B せる泉 20 これのば 判に 水の水 泉 の水 中の日 なら 対 to する有 び構 ٤ To ない。 ある。」 で既 述に 造 力 主 ベウ

それ 学に は 0 いづけを行 \$ 一元論 まず唯物史 於いて とは独立 0 独立した、人間の原初形態であるととは、一元論を否定して、人間の言動活 **,** 枠内 ったことである。 観 で裁断 VC の経済 味 づけて、 は一元論が、 社 対 会科学の L 人間性 して、構造 P F 価値 主意 VC

社会活動において、還元することのできぬ二つの原初形との方法によると、生産活動を言語活動とは、人間の

の反映に 従来の 体系 構造 念形態は、下部構 < って 分析 ているのである。 の自立性を否 強造と上部 が 過ぎないと見な の重要な要素で 語活動から生ま. この二つの活 解明し 史観の見解はとれ 1認する 造とに てくれ 造 と見なされている。これでたる生産関係に牛耳の もので て、 二分 n 動によっ あることが示された。と た 唯 し、上 とは異なり、 念 物 あ 5 史 て社会は構成さ は、価値体系 観の 部 とれ との点を言語 構 5 欠 造 は観念の 社会の構成 点 れ to る人 を 暴露 生産 とろ 価値 関係 Ļ る 0 観 をが T 0

語(ラン 変化する 左程の 動の原 5 即れ る 善悪の ち構造 変化に至るもの悪の価値体系 ンゲン 初 実証 的 ,)と、言 なもの 主 的 なも 一義言語学が示すよう VC 言のパロール言語学の言語学の のではなく、この価値体系は、未開時代も、また現在 いいこの ル)との二つの区分関係にこの事実を言語学が、言 とやそっと れた \$ 10 ので 言語活 あ 3 で、 た は か VC 人間 p 至る 5 いすく

-16 -

ナ 5 よう VC な る VC 0 ので 世界 構造 観 革 VC る。と云う 命 とか の上 2 て有 の示す VC を 重視 力な 0 は VC 助言 価 す し たかっ 値体 を与 5 0 Ł T 系 7 プえ えて自 は 観念論 IV IV クスは 1 3 立 ドれ性 2 たは

産関係との である。マ 弁証 を支持 では かり い言に過ぎない も示唆 法的 でなし な か し生 S<sup>o</sup> 吾 らく な W: 一かさね 矛盾か するもので 関係ではなしに、構造論的 る N ロタは クス な迷 B 一性が示すよう 物 0 の見解は であ る言 質 ばならぬと思う 今とそ勇気を以 5 生ずるも 文明 兄解は、社会変革を只、言でないことを実証して ある 5 した。しか と精神文明 プもの VC に、プルー との 1 り。 この問 いて、 プル み決 لح 関 0 関 F. 係 80 係 n てく 題 つけ 0 1 論的言語 1 生 問 は は ドは 産力た 一元 T 歴 2 題 いる 6 決 史 0 提 論 ٤ \$ は あ 観 L ば案 歴 的 牛 0 T

ح 0 て、 不思議 よう 文法論に な T VC ح 構 < 诰 7 n 进 VC る有 VC. 20 主義 主 プルードン は、 亿何 力 関 か な 財 心暗 吾 を黙 源 4 深の 0 0 思 めつ あ 0 \$ ざるが 初期 あるよ 5 0 山 をり プ の 著作 得が IV 5 ir 1 VC なあ 活 思 F\* W 3 のよ 動 えし 2 と構 になった方 ですに

一概に に構造主義 n で私も に問題点があ 我のエッセ との難問 る 0 を VV のかを決定することは至難でソスを抽き出すことはむづかいろいるの立場や傾向があっ to 80 VC 構造 かあって 0 研究 であ

> 次の である中 ょう フー に述べた。 ] ] 0 「知 氏の持説に従っ の考古 「学」の T これ 訳者の 序 VC 文 とし L to T

で、私自身の ものが、何知 をもつものも のが、実は思 者ミシェル 村氏自身が見 決心 スの 7 あ L 思想 る to のなの 8 ・フセー を 口私し 処に ح 最 0 n 主軸 \$ 2 2 す れと最 は ۴. 私 捉 か あ VC る の思想ある か、な L なりにえ易い して 態 ス VC 3 して、 0 T 度ト の構造主 か F. か \$ B がロ 人物と なかと 最も捉 構造主 1 重 構造主 • なる 頗 ス 5 とク ス は 3 らえあ 似 1 L 義 2 理 義 トえり あると思った 所 らえあぐれば 通口 T 000 から 0 - 一スを選べ あ 領 っぱ ∨ m ・フー っとも るよう 域 T h 40 b + だ 8 問 とし T るン と、当と、 び、ス 捉 1 骨け 題 所と VC えよ を折 の重 云 見 意 かの を選んな代表 5 ~ え識 あ 妻性 者 5 ŀ 0 な 造 0 口論 te B

に云う。

を明かにするととの出来た科学の名に値する唯一の社会法を確立し、同時に、その分析の対象になる事象の性質法を確立し、同時に、その分析の対象になる事象の性質

科学で L 0 原子物 革 新 的 理 役 学が 割を社 言語学と人類学との相 精密科学の 会科学 0 領 諸分 域全 野 体 VC VC わ お 互 to 5 関 て果し 2 て果

T の仕 弊を脱し そ た 方 4 0 VC L して更 準ずる や人 一と力 て、 VC 旨を明 発は 社 説 新 会 かに L L 人 てきい社 類 0 学、 L る。 会 T 文化人 科 か を , s. . 言 学 0 礎石 類学 学 人 0 っへと進展 類 学 な る が論 古典 ~ 0 L 結 A 時 合 T \$ 0 杏 tt

あく 本水人方準類 ク は 3 5 、まととに 針 VC 学 口 か 幸 いである社 □ を見て 多少 上地 ボ 5 7 な なるるも b 8 B T 0 理 + 争 則 自然 0 ンの VC 相 学 を 0 会科 派と社会 I 実証 違 To あ 主 立 0 は は 学になれ 的 張 樹立 T る 異 3 L よら 0 I Ł 1 度 な 歴史を意 おかスるけれトア L VC 5 あ りけ として 誇張 VC 彼等の な ナ る トナス 形 人 5 争と L L 心味づけょ から いる 而上学 よっ L 類学、地理学の T 0 共に こし よう で、 4 ポ 1 た 0 ク 人 とする 科学的 相互 科 的 口 類 かい + 一学的 らと とえ ボ 学 な \$ • 1 一方物態 発 1 Ł ばんは は 基礎 展 + 間 度 帰 世 法 位 1 的 -VC にお新互 0 納し ず、 \$ 則 置 10 う 基究 牛 B

学とを 科学分析 学の 歷史 達 n との いる は正 か 口 と思わ 異なる 原 3 0 は 5 学 ることにある 上 。これは社会発達史の上 動 統 V 0 7 O K す T 1 生存競争 発達 N 力 F. VC クロ 産 で お 1 せるも 0 が設動 はな 合 P H Ł クス主義 ボ は、多様に見える原因 を ある ので L 3 KI 7 設定され ス 元 ものがそる点の効果的 to 幸 真 1 5 11 ある の方法を ・キン 1 は 一点張りの から 0 づ 5 で、 論的 の唯 口 澤法 5 1 活動の から 1 さ 1 基礎になって にみで 即ちク 重 スも を推 う。そとに科学 0 6 10 史観 でも 主張する 的 0 とて分 た 法 ように べづら なさな もないな寄与 一元 眼 奨す 代 0 0 は、 とは科学的 にも適用 t 科 割し 元論的では ボ 3 VC 5 Ξ 学 いを、で をなし 今日 原因 5 O 1 に述べ にって間 肢 所以は ため 7 いることを実証 キン P よりち 得 た され 0 に、弁証 ない を多 があれ 3 ナ 方 き クロボ たもの 文化 分析 理学で ことに な VC 0 法 T + るだけ単 社 Sop の非を悟 根 様 0 合 ズ 論 5 構造 0 のは、問 化する 会 \$ た 4 源的 人 3 0 態度の点 学と人 実践を生 C 類 あ 0 1 あ 法 <u>-</u>-キはなの 0 ってれ 0 幾 E 論 念が、 -6 題 な 3 を 的 批判 あ と と と と 純 中 \$ 人 T VC T 化 7 類がい発類

証 T 法 ナ 0 3 + 的 \$ ズ 綜 H 命 4 合 3 的 な結論 から Ļ な \$ 結論を 抽 から ま き出た右 出 遵 き出さ n ば、マ 抽き出 さ 翼 的 れ社 綜 会民 た 合 てい そら 0 0 IV 7 主 た 7 とする ある。 主義も ス 6 80 った 0 VC 革 ことの ー ・ す命的ジ にとえば 際、 人 綜 代 合 T ナバに 科と コク I か 011 5 5 と弁ソニて思

る 身 理 It. 践 杏 には 定 VC 专云 一対 的結 H 成 VC 0 揚 從 Ĺ 説 る 対 立 0 す 弁 **云えることであ** 対立物の斗争」 立するに至る 論にな 証 5 VC 立 を 9 概 \$ 止揚 001100 させら Ł 念に ので 法 引 小論 例 的 次のよう . る筈 の結 しょ あ 綜 0 5 と否とに 争」も 非科学 る n 合 思想を形成 4、相矛盾 敵対的 や、この 50 カミ なが る。 な 5 -しく 綜合 VC いば 科 的 理性 対くないないない。 分 系 要 する つま E 奏の れる す措 もこのれ と的のに 51 しての新 る定 物 が化  $\neg$ とは、とたがひとた 斗争が さ 0 否 がは I Ł 0 又措 れ斗 定 あ 弁 5 理 うとと 対 3 証な T 争の しい思 のび いと否 思 法 カン 種 立. 定 to 措定 る。 は、定 物 弁 0 想 思 0 H 正 5 , 想 t VC 証 由 \_ 0 綜 0 1 法的 は、 とし ٤ 重 4 想 VC 即 幸 弁 あ 合 杏 証 にざ結 包 づ カニ 5 5 3 肯定を自 運 含 法 重 論 形 ^ 5 お ح 1 けた な 成 動 7 的概

> P キズ 国家 会様 心想なが 気 はがな 止 3 る。 口 揚 単 0 4 式 はそ T あ 5 要 VC 0 から ح は単にレトリをはどのよう の 出社 現 あ 0 な . で あ て 対立 は止 So る あ 5 さ 会様式 カュ れるこ る これま 物 か 止 揚 株式か、それとも 揚の 9 0 0 IJ 伏 0 即 とを期 がり な 斗 操 ッ 世 クである て、 、その ち依然 作 人弁 仕 争 証 方で止 から を 果 カミ たい 弁証 酔 法 如 官僚的国家機構 0 どちらを する 何 密する ٤ 新 わ K にな せは 止 法的に L VC 揚 L 過ぎず、 多分 され 3 揚すると T \$ 5 巧 自 さ 0 生むか VC 止 由 である 妙 3 想 n そと な魔 を抑 3 か 揚 から カン 科 を 5 E さ 学 9 5 nK 解 庄 E 術 IJ Ł から だけ ٢ ٧ あ 5 的 5 3 体 す 0 5 27 3 7 ح I L な な る す 方 20 雰 法 い用 VC

起 ح 5 れ 6 弁証法 から T S いるわけで V あ 学 3 カコ <u>山</u> 義者のか レト 下正 間の IJ 男氏 2 ク カン ٤ 5 5 問

弁証

学

カン

h

IJ

問題

と頗

似

诵

0

題

カン

って

マ

ル

7

主義者

で、

P1

リオ

デ

1

のた

7 ブ 0

あ N

る F.

何

ルれイ

~ \$

1 -

プス

ルタ

IJ 七

上を

契機

Ł

L

ルン

ク批

H 1 22.

7

ス主義 判

10

E

あ

755

IV +

^ 1

1

IV

ア

1

N あ

50 る。

間 即 学

7 5 Da 3

戦

わさ

マてれ・ロを

カン から

題で、

論議

さ ス

ととが

ルカた

一路論 UD 造 Vs を 論 3 2 て、 3 主 n 本 to # E 0 b は Ł 0 L 動 的 かし 格 Ł 資 入 かた T い本 \$ 15 5 社の宇たこ た 5 論 IV L \_ EV 会 を 主 7 マッ 7 あ 理 義 論 ルテ 釈 N VC 3 IV だ な B ク 明 ク ^ なスを ス 0 ろ る L to 主義 はら Ł do る 結 5 0 0 0 0 論 弁 宇 o h 即 は が我 が「た」 証 あ 5 1) 野 り国資 法 P L 弘 た 本 論 b 蔵 DI IV 0 氏 ح T チ 分析方法 出 1 倒 \_\_\_ あ T VC n T t 従 03 0 ح ٤ \$ 克 同 神 O た を いばじ 資 殿 L ル題 本をかが を 経

のでで如し 云 まことに 想が あ 何 に止揚 3 5 争 3 2 形 上 から 世 5 成分が 1: 杏 な る VC 資 7 さ た 0 バ 鼓 5 1 労作 舞 れ法 n ク 科 本 ると ニるかか 的 カラ to 1 学 ح ٥ と動 6 ニン あ 的 Ł あ 755 0 3 左 はブル 方 0 思 5 Kh ---5 る な 9 衝 即 テ 破 3 索 I \$ 仕 5 は 1 っへ壊 L の方 1 か T 論 レ何 ゼ を 止ゲ 衝 VC L VC 1 \$ そ 揚 な 対リな 弟島 IV 動 3 ح ッい飲さ弁 を 仕 L がみに れ証 Ł. に対 クが 同 示 て、 、に人し にしたと 法、即 時 0 VC 7 甚 立 会 あ T だ 物 0 る を 建 vc 5 設ア 0 の次 。 酔 発 わ言新対 31 1 0 1 L 0 争論がと かせ、あ レ 立 衝 7 + 1 あい物動 的う 1.

警 た ア 論 な イ 年二月の一九〇二 の全 独裁 支 る体し 配 \$ ない 下 する 意 政 + 0 を VC X 0 者 C ち 西 ズ \$ 1 0 五. 発 義 権 会 あ 偉大 革年 批 かの す 会を L 欧 4 2 VC 3 を VC VC を を 失 I 実 命 0 諸  $\overline{\phantom{a}}$ 判 わを T を目 か 命 0 国と述 に 革 持 b な思 建 2 現 5 す 5 5 0 0 1 命 る 3 0 VC 中 各 設 T T さ T 想 ح ح VC VC T 支 れっ時 U 労 ~ L n 具 0 K L T 壊 Ł 新 I 幸 配 で た TV 働 はク 観 VC 0 3 ものツ劃 者 自は Ł 5 あも な te 0 0 な 労 3 7 念 5 不 な L VC T T ح を れる ヴに的 3 5 口 可に創 者は と るれ 限 ح で、 アされ to エ与な 壊 だ する n を き 能 は 2 5 6 < 何 を 1 H L りの • 破 で 出 5 を 導 ため 1 0 は 5 + で、 0 出 唱 あ 1 自 革 政 即 塽 現 そ 0 1 ち労農 5 17 労 政治 権を 導 山 3 VC 5 から 命 を L b ٤ 5 0 存 C 0 E 建 が農 人 は カン さ 在する 会議 は、 ましめ 転れ す 李 世 設 新 的 VC 握 死 る 会議 経 T 6 覆 V な L L 刑 経 \$ 次 現 は n 済 す I 0 済 3 x T る 14 \$ 0 VC VC W 5 官 明 が的 \_ 0 0 5 存 かに党活 九思 よ更 4 科 0 0 E 告 礎 1 Ł な たっては、 5 VC 学 を 明 在 C 5 + は いす 0 理瞭 C Ł 3 あ 下 ح のを **化** ま Ł す

認識 堅持 を遂 であ 点 る 5 C 処 5 あ な 5 Ĺ バの 社る行 < 理 3 あ L ズ . 7 クで 5 L n 3 L 会 す 口 得 建設 は実 3 運 5 る真 0 ア践 = 3 営 لح 3 革 n 0 ŀ ポ らって ナ いン 能 L 観 VC 命 ソ 革 L + 1 念を 力 + I T は To ヴ 命 2 + を I h w 1 は ヤズラ 2 弁 労 あ から < 持 働 ---目 歴ム Ł は 9 5 工 証 力を持ち、あ 史 0 す あ 法 VC 7 併 ta 党 的 一口世 主 1 ば 独 な 細 3 的 破ポ な \* が要 П ま 必 T b 3 自ら 革 問 然壞 1 持ち 即 0 主 能 C 題 性 \$ 4 0 + to 幸 身 XZ 5 如 命 衝 更に と農 労 To 7 ンね C 75 善 0 ح. さあ 現 農 綜 動 のば B 実性 会 合 は 革 複雑 労 を 会 家 左 れる とす 同 命 5 農 云 議 to 5 議 を n 信 時観 な 会 VC 0 ばし 7 0 XZ b 議 VC 経 対 る 幸 な 0 価 -gr C 5 2 ح 追 値 る 建 あ ٤ 済の 応 7 現 5 究 占 問 組 す 2 革 X 5 意 設 6 を L X 命 る 題 織 to 3 Ė C 所にに識 7 0 強 以アあをは衝こ調をを新の治 T

は 0 計 ح 1 5 希 らん ٤ n 求 T から VC 寸 必 当 3 7 \$ 5 7 to のキ あ 10 \$ 7 ズ 3 0 LA P 0 ての 主要 + 従 I ク 0 5 ズ 主題 てで 7 あ 术 とし 会科学 b 1 ボ + ト 吾 ンて 00 のキタ 著作 労 T ンは 0 5 農 会議 著 n 0 書 を 大 を理 部の

は

VC

3 2 D I do 5 P る を スキ 心掛 感じ、こ 4 1 0 人 H も必要で 造 類 とに表の 学、 地 脈 人 理 あ がの糸をとなった類学の ろうら 斯 一礎に 発見 = =1. 9 L Ĺ すア たた 3 1 社会科 5 ス とかの 5 学 必相 的 通

化が とは考 は、こ 予言 かる 会 演 のす 1 た ある統合 を見 文っあ 会 ~ 7 5 明 進 な T す えず 歴 次 7 步 刑 n る 3 6 5 理 0 2 5 5 人 を 想 か 史 を 5 호 H Ī ら、逆 的の 会 現在 ٤ I لح 0 的 生成 0 1/E I U to 5 VC 最 文 から \$ 奴 明 0 求 VC L 2 す 5 L 0 ろ延め よう。 2 云 隷る ~ VC 0 な I n < 化 任 0 機道 \$ 冷 長 5 5 n 3 n 一務を する 移 保 械 ぞ 5 をの to n -存 E 行 開 7 れいあ 彼 を 6 n 社 ح 完 人 考 6 S 0 3 7 \$ は 3 VC とをに 間 n あ to 充 古 会 5 す 有の性 はその はその 人 文 T 6 6 亿 人 3 5 間 余 変 5 b 古 負 李 類 ス 学者 儀なく える を、で 性格 学の社 れ 3 L 社 超 人 お T ょな 機 間 ح あ 会 越 2 課 5 9 を VC さ会れは K 3 性 0 械 0 5 人題 6 -場合 Ł 2 のま漸 Ł I < 類 な 成 犠 進 次 Ł 矛 to L 5 0 n 人 数步 に 功 牲 上統 熱 将 盾 は なも 类百 5 モ 果 文 5 す 10 5 - W 学 来 L 3 す社の 者 L

久的 5 き 務 を 0 \$ T T S 5 3 + P 0 VC 5 0 it お あ W K ス 0 T 左 6 幸 な す まく、 1 人 から 、間の 類

と社第れ会一 め前 て的的現な生を在 一以に上 スト る 進 する途 方法 歷史的 成 のは 一の言葉か ロの目道 生産諸 唯 Ł C 物 スの方法 史 来社 あ を 生 熱 E る。 を 講 成 関 観 5 じるも 社 前提 0 係 0 会を 5 推 は 7 ょ 会 女(文明社を求めるに が 生産 とし な 察 5 < VC. 復 0 Z T 古 6 力 れ 主あ との 社 る 0 価 る。 会発展 義 会 当 上 値 ょ で、 を要求 を 発 0 5 -発展の L て VC 展 選 過 か択 程と見 す Ļ 統 値 冷 L 体る 7 合 たト B 系 だの を V D 00 上な生求社」 カン 寸 成 統 C 5 7 会ス 80 と云 合 は 一元 のてへはま 0 なく 歴 を を 史論 る 開 づ

書 5 0 0 中 方 T 法 \_ 2 由 C T るも 展開 は 0 曹 ク 可 0 を L П p C 基 7 ポ 本 T 社 I あ b t 3 るキ る VC 会 VC C > る点など 大がエー 間 幸 T \$ to 性が保存 農 守る Î 業田 も、矛 保存さ 優生 結 ح 合 . は 4 OI 0 が、盾し H n ス社 I 場 業・主仕 0 L T 1 会 な b D 0 3 義 事 意 5 1 ح 図 万 場 恒 ス 類のとを未 7 0 能 を

> じと 援 6 助 1 n T ス 5 3 よう クな VC 思え 証 > t 1 3 T 理 る 学 理 学の間 0 73 あ 起 礎づ 疎 6 源及 外 H 7 0 Ti を D 発達点 ポ 1 VC 面 丰 カコ ンの \$ の中通

の社会と文明確に区分 分にといり性 上会に観 5 5 5 L 構造論 0 を認 L 産 2 3 カム 1 上 有の \$ 5 T 化 的 観 係 部 80 異 動 T L VC \$ 動型やその他の8 概念で表 は社 ので 構造 ていたは レヴ ح T 人類学の特色を挙げ VC 社 は T を 0 る。 L 下 会 あ ٤ 種 密 1 会とは人 全体 下親現 類 接 部 6 そし ス 9 V 0 構 0 な る 造 0 相 4 構 Ĺ 現 似 1 7 造 0 基 T T 象 互 組 得 通 IJ 度 N 口 と示すものと と示すものと れらの EK いる れる 関係的 5 P 1 反 儊 ク 5 N 4 0 1 0 であ L 映 ス た ス 主 区分 0 組 2 2 カミ n 2 T とかした とれば b 織 ば L 義 こ ク 的 造 IV 義 T VC 3 D るの見 見 がポ to 集 0 社 団 人類 做 部 V \$ マを L 合 슾 あ 1 iv そのおり でぬし Ł 3 0 T 体で 0 + ٤ ク社 文 下 あ 5 と見做し 相互の 相互の お き 構造 化とを 尚 るは 部 6 ٤ 0 to これとのと 観念 ٠, 構造 2 0 の対

過程 ては実に傾聴 て を見 を 弁 VC を考析 弁 証 1 0 法 証 T r 慮 し法的 \$ 5 心する方法 的 な b VC 5 実証 VC \$ カン 思え 構 る 会科 0 ٤ 成 で I る なをと するいに 価 0 値 7 0 仕方と 方法 って 体系 ある を採 ス でがトロ ٥ とし 5 7 を る L 照な識し 0 T の尚 < 3 ス I 合 払あるらの れ 0 5 L う生 I 思 VC 分 T 2 成 仕 5 第 野 ک 0 م の社を会 わ科 学 識以を n 取的 るの E 充 0 分野 0 予 中の 逃 3 意 T VC I で 備 L は 9 あ

明らか T 0 あ しま 変遷 ろう。即ち弁証 ら怖 を定立する VC 弁証法的 n から あ ことを急 法的 必然性に 3 必 然 坟 5 F す で、本質 5 9 る ーっ 概 念 VC D 的 なは 警 \$ 0

概は、 念に る VC 頗 ク は る 最 似 ボ \$ 通 1 よき手 + と 本が V とあ ヴ なりィ る . もアス のナ 1 がキ  $\Box$ あズー 3 4 ス 社 7 لح 思 4

れのさてタや本 ての だれいIレ家君 こ ガ スの もれり は を1 ウ 1 強 知 I グェラ引 . W 1 っ書 かな資本投下! おより エルス でいるだろう でいるだろう 71 T W V W = 0 V 1 グャ V ス ァピ 本人がうお君 0 4 旅行 労 行が願 かグ グループァ から、君 ガ動わ 5 1 者れグ L がて 4 ァ to おいム is ve 0 事務員 と思う 連絡し で は 員な主と数年 1 か た ク、 5 Ĺ 来 £ 5 E て日だ Ł 2 ウホ 本 言 1 K L 支 組てェテ 0 b 織来イル資 れ部

を急

5

で、

的 5 か

分

野 は 前 か

比の分

行での

凡野

社とい

VC

甘

ごく と、本

似

る な

0011

現 取

定

義 ع

す

る VC

VC

ていい

\$

0 較

を

がすの

たなとその

7 5

あ T

3

でう凡と

実を

な は

to

ざり

ic

する

ح

3 <

50

そし

T \$

る

4

働

B

2

5

だ

から

等

労

働

組

合

100

L

\$

0

0

数

な な特性

0

VC.

5的

性

法則

を

定 復

L

T

n L

格のな

を

Ļ 会

乃

同 VC 仕 象 逃 な

義 な な を

語

反

を

冒

ね

ば 0

なら

な

5 労

現

実に僕

た

5

上

その

必

要

はそ

0

P

IJ

カ

局 VC \$

思

李

幸 から

にある

た

1 主

ス X

P 移民 以 彼

ワ 0

力 5

ンや

VC

な

C

類学の

えに

るお

元

5

て、

直

5

VC

あ

0

野の等質性を引い種の事

定注

立意

る払う

す を 類

きは披方で比瀝に

較

Ł

5

か

る

0

がそののなる場

3 K

歴史

しつ的

生成と

聴

心に価する優

た注

を

合

VC

5

T

\$ 意

分 次

~ W K

V

君

ム島

カン

おれ

の即道ち

を 発展

共時

的

法

は

決

L

0 3

証 T

n

4

かったな を E W 題 て員 J 5 カニ H パのは超 5 左 W 三にの半で 1 君 アっカの思日れンだ僕えるグを n て試ァも 等 四に事四ムた1 事う本まフ め十残は日に佐の件の語でレ君の全みム だの日ッは中労を っいの来藤切と かた たく休た君抜い 文本ト誰の働 L ( 献を 労 進 人 が ら 形 を 間 て間のつ暇 " It 1 5 い半はかでーーよの 四の総日九れは のい十歩額十七ば、 ドテーニー、同 と中訳 彼 族 いルルケ時年・封 W日な的ァ はがん でにし W本ると 四るだで月間十・さ た日で 何何ての語と っさ百か一・れ すで かのく 文がと る産 たせ八ら月もた ま本い 1 話 たのる 知連れ献 7 の業 。て十十九とイ せあは別 ら絡る すやか 五日帝ン 4 彼月ド 示くが 者 3 玉 六のは末ル時旅国ダ 変も 談ざ分 化持をり読 籍働 会にへ間行ホス でのる が起かっている。 時準社差室働ガテ 起ならフず 間労の引付いイルリ るかなレ書る語の 決方ろ は働たくしてドのア

だっいっけがの尖ろたかトず問差兵Ⅰ

あだかなオと りる1れ 日か。バに 本日と が本れタっ 経のでイて 済家訴ム干 の訟と 百  $\pm$ 者にし とま持て十 込 5 C ぬ脅ん干ル だ百に ぼ 迫 れさと三 るれと十 てろ三 いがドセ VC はる彼ル百 弱 ・ が ニ 者 · 脅 十 十 の・迫三八 とさを時 IÍI いれン間 Ł

だ

四

5たト半

がのばには

て脅

#### 太×

大久保

べても 1 下っ毎 シさと号 労御苦 E V であっ 大学卒 大学卒 てでにでら 簡す H \$ なわ単・ 5 ps 12. なら判 いぬ明ナ と小す二 思数 るナ いイよニ まッうい すテにわ ・ リ レ く ・のべで

・マルは

夕下

スをな

Ш

泰

0

間に料っケレ業・佐ろたかトず問

ハ世ら向鹿 0 ウバ 井 ス出な孝 × 10 しっ君·×ッ° 号てかが人 青れったとそ 房た山な 発の鹿中生 行だ君か涯 05. 定東ひこア 価京たのナ む本キ 六 板 きをズ 円区な 出ム 赤生 LE 涯てエ 塚 2 を くス 1 とれべ 25 れ た ラ K O V 9 よはト 白っ嬉

樺てし

H 17 前 カュー 黒戦 戦 it vc 生 拠 \* 2 てた い塩 3 君 ٢ 5 僕 50 D っ文 たが 感 < L 0 玄 th

ベ本

はて

リベルテール 一部 100円

毎月一回15日発行 Le Libertaire 1974年6月15日発行 Vol V No 7

編集兼発行者 精 一 三浦

東京都練馬区大泉学園町2190 発 行 所

萩原晋太郎方

リベルテールの会

(振替東京 133830番 三浦精一)